

◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：第6回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

代表者：実行委員長 横山寛爾

URL :

1. 活動が必要とされた状況

県内の環境活動をさらに活性化させるためには、個々の活動（点）が繋がり、線になり面になるプラットフォーム的な場と役割が必要である。環境活動を行っているメンバー等が一同に介し、情報交換など交流の場を持つことにより、活動が推進されることが期待される。プラットフォームづくりの役割を果たすために「第6回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉」を開催した。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第6回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう エコの環～開催

実施時期 平成27年12月12日（土）

参加人数 約250名

開催会場 大宮ソニックシティ4階、市民ホール・601集会室

※地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体等を構成員とする実行委員会を組織し、企画・運営・準備を行った。フォーラム当日は講演会、5分科会を開催した。

<フォーラムの内容>

講演会 「2003年：熱い埼玉！都市への低炭素化への戦略は」

高口洋人氏（早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授）

分科会 「くらしのエコ」、「化学物質と食」、「生きものと環境教育」、低炭素な地域づくり」、「ESD 持続可能な地域活性化のために」以上5分科会

※今年度は、交通の便がよく参加者が集まりやすい大宮駅周辺の施設で開催した。

3. 活動の成果

- ・ 学生分科会を設置したため多くの学生の参加が得られた。
- ・ 実行委員長や実行委員のメンバーの入替えを行い、新たな企画等を作ることができた。
- ・ 環境ネットワーク埼玉が事務局支援を行い、スムーズに活動を行うことができた。
- ・ 交通の便のよい大宮駅近辺の施設で開催したため、多くの参加者を得ることができた。
- ・ 分科会では5つのテーマに分れ、テーマごとに深く話し合うことができた。分科会によってはワークショップ形式（参加型）で意見交換会ができ、参加者の満足度が高まった。
- ・ 新聞掲載やテレビで放映され、広報ができたため認知度が向上した。

4. 今後に残された課題

- ・ 早めに準備しているにも関わらず、運営や準備が遅延がち。スケジュール通りに運営していくことが必要。
- ・ 継続的に議論する必要であるため今後も開催すべく体制を整える必要がある。
- ・ 分科会により内容や議論の質に差がある。参加者が満足できるような内容を企画できる人材が必要。
- ・ 参加者が積極的に議論に参加できるような分科会の運営が必要。
- ・ より参加者を得るための企画のためのアイデア、広報等の仕掛けが必要。